



教師と生徒が触れ合う舞台

第1回
**ねやがわ
建築賞**
市長賞
同志社香里中学校・高等学校
メディアセンター繋真館
設計者：八木佐千子 / NASCA + partners



中庭の本来持っている機能を失わずに、中庭を再構成すると同時に、礼拝堂へのアクセスの不便さを解消。既存の中庭にあった樹木を残しながら、透明性を確保することで、延べ面積が877㎡とそこまで大きな規模ではないものの、変化に富む内部空間を持っています。機械室の上を読書室にして見渡せる場所を設けるなど、建築計画・デザイン・家具・ICT（情報通信技術）を一体として新しい学びの場を創り出すことに成功しています。

第1回
**ねやがわ
建築賞**
優秀賞
SINKO AIR DESIGN STUDIO
設計者：株式会社竹中工務店大阪本店



まちづくりで新たな景観



工業地域の

昭和46年から宇谷町に拠点を構えている新晃工業。老朽化に伴う建て替え計画では、同じ敷地に新たな施設を建築することにより、寝屋川の資源のひとつである工業地域のまちづくりに新たな景観を生み出しました。

南側及び西側に大きな開口部を設けることで、外部に対して開放的な内部をつくと同時に、日射による熱負荷を軽減する設計になっています。優れた設計により、オープンにつながる内外部空間と環境性能の両立を実現しました。

撮影：笹倉洋平



特集①

このまちが変わる。 あなたの暮らしから



撮影：笹倉洋平

寝屋川市は高度経済成長期にベッドタウンとして発展してきたまちで、古い市街地というイメージがありますが、令和3年8月に寝屋川市駅前にオープンした中央図書館や、令和5年度中に開校予定の隈研吾氏設計監修の小中一貫校など、デザイン性の高い公共施設の整備を推進しています。

今後、住宅においてもデザイン性の高い建築が増え、公共施設と一体となったまちのリノベーションを促進させるため、「ねやがわ建築賞」などの取り組みを行っています。

図 住宅政策課 (☎825・2266)



「ねやがわ建築賞」は、市の住環境に対するイメージアップ、既存住宅のリノベーション・新築促進を図ることを目的として、市制施行70周年記念事業として初めて開催されました。

応募のあった28作品から優れた独創的なデザインなどを審査し、令和3年11月20日に6件の受賞作品を表彰しました。今後も、まちのリノベーションの促進の一環として、続けていきます。

「ねやがわ建築賞」



撮影：笹倉洋平



第1回
ねやがわ
建築賞

優秀賞

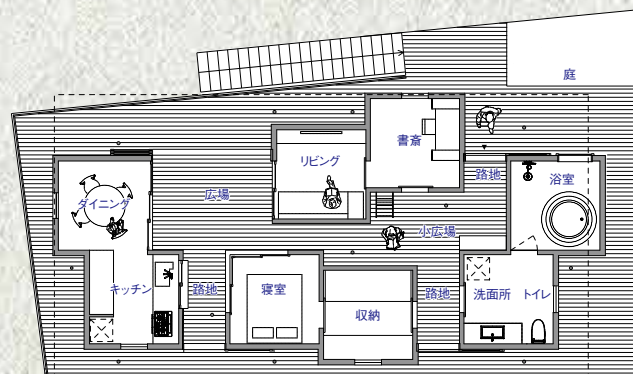
設計者：濱田 猛

file 2

四畳半キューブの家

全ての居室を四畳半とすることで新たな住まいの在り方を探る

テレビや雑誌などでも取り上げられていた建物。
千年以上続いた日本の伝統的な建築手法を体現されているのとは感じられます。キューブを開けると大部屋につながり、大部屋を開けると外へとつながるなど、様々な場の在り方を可能にし、現在の言葉ではフレキシビリティやサステイナビリティなどに置き換えられる豊かな空間が広がっています。
こんな建物が良いな、こんな街が良いな…と感じられる物件。



Point

●四畳半で広がる可能性

四畳半キューブ8個で構成。一般的な住宅に比べて四畳半のリビングは狭いですが、こじんまりしつつも広場に面しているため開放的。一方で浴室は広々としてちょっとしたリゾートホテルのよう。

●懐かしさも感じられる

この家のどの部屋にいてもどこか懐かしいと感じます。それは私が学生時代に住んでいた四畳半のアパートと同じスケールだからかもしれません。

file 1

内に開く家

外観からは想像できない開放感

第1回
ねやがわ
建築賞

優秀賞

設計者：株式会社住まい設計工房



1階の玄関から
2階に続く片持ち階段

外側から眺めると窓も少なく、壁に囲まれた閉鎖的な建物に見えますが、リビングや寝室から見える中庭が広々とした空間を創り出し、開放的な生活ができる建物は、まさに「内に開く家」です。
白を基調とした壁面は清潔感があり、片持ち階段による開放感、生活感を感じさせないキッチン周りの納まりなど細かい工夫がたくさんされています。ビリヤード専用部屋もあり、家族全員が楽しく過ごせる素晴らしい建物。

Point

●中庭が部屋を明るく

リビングや寝室から中庭を眺められます。日の光をしっかりと取り込みながらも、中庭は壁で囲まれているため、カーテンがなくてもプライバシーをしっかりと確保。

●考えぬかれた動線

一般的には「寝室にクローゼット。キッチンと洗面所が近く」が多いと思いますが、洗面所とウォークインクローゼットを隣にしました。洗濯、干す、収納までの動線がスムーズに。



file 4

ニコイチ

”2戸をひとつ”で団地暮らしに
新しい価値を創造



第1回
ねやがわ
建築賞

優秀賞

設計者：株式会社バーシモンヒルズ
・アーキテクツ一級建築士事務所



その名のとおり、2戸を1戸にリノベーションした「ニコイチ」。築50年以上の団地が、現代のニーズを捉えたデザイン性の高い住宅に生まれ変わりました。

住民の高齢化による団地上層階の空き家増加、45㎡の住戸のニーズ低下という課題に対し、隣り合う空き住戸をつなげ、90㎡の広々とした間取りに。より快適な居住空間を確保しています。若年層に団地暮らしの魅力をアピールします。

BEFORE



間取りのイメージ

Point

●開放感あふれる広さ

一般的なマンションと比べてかなり広いところが気に入っています。間仕切りがほとんどないため、昼間は電気を付けなくても明るく、風通しもいいので開放感もあります。

●DIYもできる！

DIYもできるので、カスタマイズして住み心地を良くできるのが、住んでいて楽しいです。

file 3

図と地のリノベーション

ワンルームの空間の中で
新しい住まいの提案

第1回

ねやがわ
建築賞

特別賞

設計者：濱田 猛

撮影：笹倉洋平



約90㎡のマンションを4人家族のためにリノベーション。もともと4LDKだったものをほぼワンルームに変更し、廊下やホールといった用途を無くしています。



集中ブース

Point

●気分によって

いろいろな場所で過ごせる

集中ブースでオンライン会議。ベッドスペースで寝ながら読書。大テーブルに集まってそれぞれの作業、などなど。ワンルーム空間の中で場所を変え、気分を変え、コミュニケーションの距離を変えながら家族と一緒に生活できます。

●壁を使う

集中ブースをアイランド的に配置して外部の壁を有効利用。家族の掲示板やプロジェクター映写スペースなど、いろいろな用途の壁が生まれました。

この住まいにはいわゆるリビングといった用途はなく、大テーブル、集中ブース、図書スペース、ベッドスペースなどいろいろな場所を提供しています。

集中ブースの上部はロフトになっています。マンションリノベーションにおいて、高さ方向の設計が可能であることが実現されました。